

## 第69号 「人工知能5」

令和2年1月17日

第62号の「人工知能4」において、もう少し先のことになるという前提で、「名演奏家の過去の演奏データを人工知能がディープラーニングすることによって、演奏していない曲をAI演奏家が奏でてしまうような時代が来るかもしれない。」と書きました。なんと、すでに実現されていました。驚きです。

それは、ヤマハが行った「Dear Glenn」というプロジェクトです。Glennとは、伝説的ピアニストのGlenn Gould（グレン・グールド）のことです。

グールドは、1932年にカナダのトロントで生まれ、7歳でトロント音楽院に入学し13歳でデビューしています。56年に初のアルバムとしてバッハの「ゴールドベルク変奏曲」を発表し、一躍時の人となりました。しかし、64年を最後にコンサート活動から手を引き、以降はレコード録音およびラジオやテレビなどの放送媒体のみを音楽活動の場としました。82年に脳卒中を起こし、50年という短い生涯を閉じています。

以下は、ヤマハのニュースリリースからの抜粋です。『ヤマハ株式会社は、オーストリアのリンツ市で開催された世界最大規模のメディアアートの祭典「アルスエレクトロニカ・フェスティバル」において、2019年9月7日に、楽譜さえあれば未演奏曲でもグールドらしい音楽表現でピアノを演奏できるAIシステムを公開し、さらに同システムを用いたコンサートを披露しました。AIはグールドのタッチやテンポを加味した演奏データを瞬時に生成し、自動演奏機能付きピアノに演奏を指示します。100時間を超える音源をデータとし、さらにグールドの演奏方法を熟知した現代ピアニストたちの演奏による「ヒューマン・インプット」もAIに学習させることで、グールドの持つ感性や表現方法をあらゆる楽曲に適用して演奏することを可能にしました。また、人間の演奏をリアルタイムに解析し先読みすることで、人間と協調して合奏できる機能も搭載されており、往年のグールドの音楽表現を感じながら互いに刺激し合い、息の合った合奏を楽しむことができる共創型のシステムという特徴も持っています。』

私は今回、「AIグールド」による公開映像を少しだけ見てみました。グールドのCDは何枚か持っていますが、他のピアニストとは異なるアーティキュレーションなど、グールドらしい演奏と言われればそうとも感じましたが、本物のグールドを思い浮かべるかというところまでは感じませんでした。自動演奏ピアノの映像だったからか、若干のぎこちなさを感じたことは事実です。また、彼の大きな特徴である演奏中の歌声は当然入っていませんでした。さらなる技術進歩に期待するとともに、改めてすごい世の中になったものだと感じています。